

2022年7月10日 礼拝説教要旨

詩編講解説教114「エクソダス・モデル」

詩編114：1～8、エフェソ2：19～22

詩編第114編には全体的に出エジプトの出来事が簡潔に表されております。「イスラエルはエジプトを、ヤコブの家は異なる言葉の民のもとを去り、ユダは神の聖なるもの、イスラエルは神が治められるものとなった」（1～2節）「ヤコブの家」というのは、ヤコブの12人の子どもたちからイスラエル12部族が起こされますので、イスラエルのことを指しています。またここではユダとイスラエルが併置されておりますが、これも王国が分裂し南のユダ王国と北のイスラエル王国となりましたから、それを踏まえていると理解することができます。いずれにしてもイスラエルの民がエジプトから脱出したことと約束の地への入植がここで表されていることに間違いはありません。

さらに3節以下では、エジプト脱出からカナン入植に至るまでになされた神さまの救いの御業が記されます。「海は見て、逃げ去った」（3節）というのは、モーセが海を分けた葦の海の奇跡。「ヨルダンの流れは退いた」（3節）はヨシュア記第3章にありますヨルダン川の流れがせき止められた奇跡を表しています。川がせき止められたことでイスラエルの民は川を渡って向こう岸のカナンに渡ることができました。いわゆる「ヨルダン渡河」の出来事です。また「山々が雄羊のように、丘は群れの羊のように踊った」（4節）とあります。この「踊る」というのは「震える」という意味もありまして、これは地震と理解することができます。出エジプト記第19章にシナイ契約の話があります。いわゆるシナイ山でこの後十戒を授けられたわけですが、この時シナイ山が煙に包まれ、「山全体が激しく震えた」（19：28）と書いてあります。また8節「岩を水のみなきるところとし、硬い岩を水の溢れる泉とする方の御前に」とあります。これも出エジプト記第17章にあるモーセが岩から水を出してイスラエルの人々の渇きを潤されたメリバとマサの話の指しているかと理解することができます。

少し前に読みました第111編も出エジプトの出来事を表しておりましたし、105、106編もイスラエルの歴史を回顧するもので、その中に出エジプトが取り上げられております。詩編にはこのように出エジプトの出来事を歌う歌が多く出てきます。全部で15以上はあると言われます。どうしてそのように出エジプトの出来事を繰り返し歌うのでしょうか。それはここに彼らの信仰の原点、原型があるからです。これをエクソダス（出エジプト）・モデルと言います。自分たちの救いのモデル、原型が出エジプトなのです。だから繰り返しこれを歌うのです。特に子どもたちに出エジプトの物語を繰り返し語り聞かせることを聖書は教えています。

実はこういう救いの原型、モデルを持っていることが、その後のイスラエルの歴史においても重要な意味を持つようになりました。例えば、多くの詩編の背景にはバビロニア捕囚があります。先にアッシリアによって北イスラエルが滅亡しますが、紀元前587年にバビロニアによってエルサレムが陥落し南のユダ王国も滅亡します。人々は国を奪われ、異教の地に連れて行かれ、また各地に散らされていきました。そういう危機的状況の中で、それでも神さまの救いを諦めずに、困難に耐えて救いを待ち望むことができたのはこのエクソダス・モデルがあったからです。特にこの捕囚期に活躍した第二イザヤ、エレミヤ、エゼキエルといった預言者たちも皆このエクソダス・モデルを持っていました。イザヤは述べています。「海を、大いなる淵の水を、干上がらせ、深い海の底に道を開いて贖われた人々を通らせたのはあなたではなかった

か。主に贖われた人々は帰って来て、喜びの歌をうたいながらシオンに入る」(イザヤ51:10~11) このイザヤの時代は捕囚の時代ですが、そこに出エジプトの出来事を重ね合わせ、やがて自分たちも捕囚を解かれて国に帰ることができるかと語るのです。これがエクソダス・モデルです。

そしてこのエクソダス・モデルはわたしたちキリスト者にも当てはまります。一つの例を紹介しましょう。主イエスが荒野で誘惑をお受けになられた話があります(マタイ4:1~参照)。ここには「荒野」「四十」という言葉があります。これだけでイスラエルがエジプトを脱出した後の40年の荒野の放浪を思い描くことができるでしょう。さらに三つの誘惑も、それぞれ最初のパンの誘惑はマナの話、二番目の神さまを試す誘惑はモーセが岩から水を出したメリバとマサの話、三番目の悪魔を拝む誘惑は金の子牛の話に対応しています。

この荒野の誘惑の話は三つの福音書が伝えますが、いずれも主イエスが洗礼を受けたすぐ後に荒野の誘惑が置かれます。それはわたしたちの信仰生活にキリストが寄り添われていることを示します。わたしたちは洗礼を受けてキリスト者となりますが、最初から最後まで順風満帆というわけにはいきません。紆余曲折あるでしょう。病気をしたり、挫折を経験し、信仰を見失いそうになります。けれどもキリストがその誘惑に寄り添われ、この荒野の旅路を導いて、やがて約束の地へ迎え入れてくださる。それは永遠の神の国、終末の完成と理解してよいでしょう。イエス・キリストは十字架とよみがえりの御業によって、わたしたちを罪と死の支配から救い出し、天の御国を約束してくださいました。このエクソダス・モデルがあるから、わたしたちは希望を持って様々な試練を乗り越えることができるのです。

今の時代はまさに荒野に行くような時代でしょう。コロナ、戦争、経済危機。将来を悲観する者も少なくありません。でもわたしたちにはすでにこのエクソダス・モデルがある。どこから来てどこへ行くのか。その救いの道が定まっています。毎週の礼拝でそのことを繰り返し確かめているでしょう。信仰を告白し、その救いの御言葉を聞くのです。だからこそどんな世の中でも、どんな試練でもわたしたちは耐えることができるし、決して望みを失いません。堅固な救いの基礎が据えられていることを知っているからです。